

# 初任者授業研究会

9月26日（月）

本年度採用された、本校小学部の2名の先生の「授業研究会」を行いました。教育センターから特別支援教育部の古庄部長、指導主事の白井先生に来校いただき、授業について多角的な視点から指導・助言を頂きました。

【授業者：羽野晶子教諭

国語：『ノントン あわ ぷくぷく いふいふう』の登場人物や名前を知ろう】

小学部では、国語・算数の授業をそれぞれの課題に応じたグループ又は個別で行っています。今回の授業では、まず小集団で『おむすびころりん』を題材に取り組んだ後、ひらがなの読み書きの中でも「特殊音節」（促音、拗音、長音など）を中心課題とした取り組みを全職員で見学・協議しました。

協議の中では、「特殊音節の指導段階について」「評価基準の設定の仕方」などが話題となり、白井指導主事からは、それらに加え「子どもの課題に対する実態の捉え方」などもご指導いただきました。

（授業者感想）

今回、初めて多くの先生方に見て頂く授業ということで、約2ヶ月間、授業の準備を進めてきました。授業を作り上げる難しさを痛感しましたが、児童の協力のおかげもあり、授業を無事に実施することができました。その後、先生方から自分の授業の改善点や、授業を行うにあたり、どういう工夫が必要か。そして、教員としての心構えを教わりました。今回ご教授頂いた事を、活かしていけるよう、精進していきたいと思います。

（小学部：羽野）

【授業者：佐藤祥子教諭

遊びの指導：「いろいろな道具や手段で移動したり、段ボールを積み

上げたりして、忍者遊びをしよう】

小学部では、遊びの指導を学部全員で行っています。今回の授業では、段ボールを主な素材として、手裏剣や的などを用意し、忍者になりきり教師や友だちと関わりながら仲良く遊ぶことをめあてにした授業を全職員で見学・協議しました。

協議の中では、「めあてを設定する際の視点」が話題となり、古庄部長からはその点に関しての具体的な考え方や「子どもの発達段階を考慮した遊びを考える必要性」などもご指導いただきました。

（授業者感想）

小学部の合同遊びで提案授業をしました。当日は、小学部の児童が汗だくになり、忍者になりきって遊ぶ姿が見られ、うれしく思いました。事後の研修も含め、この日を迎えるに当たって、ご指導・ご配慮くださった先生方に、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。これからも、試行錯誤しながら授業づくりをしていきたいです。

（小学部：佐藤）

